



令和4年3月24日

公益財団法人 東京都都市づくり公社  
理事長 長谷川 明 様

公益財団法人 東京都都市づくり公社  
都市づくり支援事業評価委員会  
委員長 杉浦 浩



都市づくり支援事業の評価について（報告）

令和4年3月24日に開催した、令和3年度都市づくり支援事業評価委員会において、事業評価を行いましたので、報告いたします。

記

都市づくり支援事業「助成事業」は、公益性の高い事業として適切に実施されている。

## 評価結果について

### 「助成事業」

#### 【評価項目】

- 公益性 ①都民や行政が求めている内容に合っているか。  
②社会経済状況の変化に合わせて行われているか。  
③広く都民生活の向上や、都民に役立つ内容となっているか。
- 必要性 ①公社の事業目的や内容と合っているか。  
②他の団体（自治体・民間・NPO等）での実施状況を考え、公社が実施すべき事業か。  
③廃止された場合に大きな影響が出るか。
- 効率性 ①資産等を有効に活用しているか。  
②目的を達成するために他に有効な方法はないか。  
③他の団体・企業と連携する方法はないか。
- 実績 ①広報活動は適切に行われているか。  
②十分な効果が得られているか。  
③予算の範囲内で適切な執行が図られているか。

○各項目について事業評価を実施したところ、適正に実施されていることを確認した。

#### [意見]

##### <まちづくり支援>

- ・コロナ禍での積極的な取り組みは評価できる。
- ・まちづくり支援（都民向け、小学校対象）事業について、住民グループ、小学校のまちづくりや防災環境学習促進につながっている。コスト的にも適切な水準である。
- ・総じてコロナ禍でなかで事業を良好に運営している。
- ・少子高齢化や空き家問題は、公社がそのノウハウを積んで住民と情報交換をしてほしい。
- ・まちづくり支援は行政が積極的な住民参加の場を提供しない場合が多いので、公社が第三者の役割を担い、行政との協力関係をつなぐことも検討して欲しい。

<学習支援>

- 人材育成の枠組みを学校に伝え、内容も精査しつつニーズを満たすための次のステップを行政と共に検討して欲しい。

<接道部ガーデニング助成>

- 地味な事業であるが、実績を蓄積していくことが重要

<その他>

- 予算執行については弾力的運用を望む。
- 需要の低下した助成の見直しや潜在需要が考えられる助成の掘り起こしについて、留意してもらいたい。
- 予算枠以上の助成申込がある場合、先着順での選別方法についての良し悪しは一応検討しておく方が良い。
- まちづくりは内容が広範囲にわたるので漫然とした助成にならないよう意識しておく必要がある。